

# 議員全員協議会

日 時	令和4年7月12日（火） 閉会中	10時46分 開会 12時00分 閉会
場 所	相良庁舎4階 大会議室	
出席議員	議長 16番 植田博巳 副議長 15番 村田博英	
	1番 石山和生	2番 谷口恵世 3番 絹村智昭
	4番 名波和昌	5番 加藤 彰 6番 木村正利
	7番 松下定弘	8番 種茂和男 9番 濱崎一輝
	10番 原口康之	11番 大井俊彦 12番 太田佳晴
	13番 中野康子	14番 大石和央
欠席議員		
事務局	局長 原口 亨 次長 本杉裕之 書記 大塚康裕 書記 本杉周平	
説明員	（一社）まきのはら活性化センター 理事長 本杉芳郎 事務局長 中山史一	
傍 聴		

署名 \_\_\_\_\_ 議長

[午前 10時46分 開会]

---

## 開会の宣告

### ○議長（植田博巳君）

ちょっと50分まで時間ありますけれども、皆さん、お集まりですので始めさせていただきます。

ただいまから、議員全員協議会を開催いたします。

本日は、一般社団法人まきのはら活性化センター様から事業報告の申出がありましたので、臨時の全協ということで開催させていただきます。

---

## 2 協議事項 (1) 一般社団法人まきのはら活性化センター事業報告について

### ○議長（植田博巳君）

それでは、2番の協議事項に入りたいと思います。

一般社団法人まきのはら活性化センターの事業報告について、ご説明を、報告をお願いしたいと思います。

センター長、よろしくをお願いします。

### ○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）

こんにちは。日頃より、まきのはら活性化センターの事業にご支援いただきまして、いつもありがとうございます。

それでは、事業報告のほうをさせていただきます。

まず、事業概要としまして5項目と一つ。1、観光まちづくり（観光商品開発）事業、2、観光振興事業、3、R I D E O N M A K I N O H A R A 誘客キャンペーン事業、4、ふるさと納税事業、5、その他という形で説明をさせていただきたいと思います。

はじめに、成果としましては、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、草競馬大会や花火大会などの主要な観光振興事業が実施できませんでしたが、そんな状況下でありましても、私ども、取り組めることにはチャレンジし、サプライズ花火の打ち上げや、USAサーフィントームのホストタウン事業のお手伝いをさせていただき、おもてなしをするなど、できる限りの事業を実施いたしました。

観光まちづくり事業では、地域の観光資源を掘り起こし、新たな体験メニューのプロモーション動画を作成し、紹介することで、アフターコロナを見据えた誘客につなげます。

また、R I D E O N M A K I N O H A R A誘客キャンペーン事業では、コロナ禍であっても2,400名の方が助成制度を活用し、市内宿泊施設を利用いたしました。

令和3年度から新たに受託しましたふるさと納税事業を軌道に乗せ、寄附額を前年度より約5,000万円増加の3億5,263万7,000円を達成いたしました。

令和4年度事業に関しましては、観光振興事業では、3年ぶりにさがら草競馬大会を既に開催させていただき、年度始めに注目のイベントとしてPRを行うことができました。花火大会も4年ぶりに今年度は開催させていただきます。ふるさと納税事業は、人気返礼品の開発に事業者と協力して取り組み、寄附額の増加を目指しております。

それでは、令和3年度事業報告に移らせていただきます。

#### 1、観光まちづくり事業。

観光コンテンツの編集、情報発信。

資源の棚卸し。

令和2年度から続き、地域の魅力ある観光資源の棚卸しを実施し、体験メニューを拡充し、動画を作成し、YouTubeやSNS等で紹介をしております。

追加体験メニューとしましては、かまどご飯炊き、テーブルマナー、ドローン飛行、海釣り、寝袋キャンプ、空港見学ツアー、ボルダリング、林間学校、御前崎港施設見学など挙げられます。ただいま合計で44の体験メニューが造成されております。

お手元にお配りしてあります観光コンテンツ広告宣伝としまして、東武トップツアーズと連携してパンフレットを作成し、そちらのパンフレットを教育旅行のPRとして山梨県や長野県等の旅行会社65社や、学校188校に向けて広報宣伝を実施しております。

続きまして、2、観光振興事業。

地域イベントの企画、運営事業。

去年は、さがら草競馬大会は残念ながら中止とさせていただきました。海水浴場安全祈願式、さがら・静波を7月16日、閉場式をさがら・静波で8月31日に行いました。

また、花火大会の代わりに、サプライズ花火ということで、静波・相良・地頭方、あと布引原の4か所、7月16日から8月14日の間で全24回花火の打ち上げをいたしました。

初詣祈願式、元旦に鳥居を設置し、メッセージ花火を打ち上げました。

勝間田川の桜のライトアップ、3月22日から4月4日ということです。

#### 2番、キャンペーン活動。

山梨県内契約市町訪問誘客宣伝、6市町、3共済組合、山梨放送に7月6日から7日。RIDE ON MAKINOHARA誘客キャンペーン第3弾の広報活動としまして、10月18日から19日。山梨日日新聞への記事掲載のほか、契約市町との施設利用券使用契約を結んでおります。

ポスター、広告等。

海水浴場の誘客ポスターを作成。ラジオ出演、7月26日、FM FUJI、ネットTV出演、9月21日、11月16日、1月18日、3月15日に、すんてれのほうに出ました。おすすめガイド2021、配架先、談合坂サービスエリア、諏訪湖サービスエリア、清水サービスエリアに4,000部のチラシを配布、首都高じゃらん、配架先、首都高パーキングエリア、関東近郊道の駅138か所に15万部配布いたしました。

続きまして、R I D E O N M A K I N O H A R A 誘客キャンペーン事業。

事業目的、新型コロナウイルスの影響により疲弊する市内宿泊業者、飲食業者等の経済活性化の推進と牧之原市の観光や体験、特産品のPRを目的とし、誘客事業を実施いたしました。

助成対象期間としましては、昨年、2021年11月1日から2022年1月31日までの市内宿泊者を対象といたしまして、助成額、合計で1,200万円、5,000円分の商品券を2,400名分ご用意いたしました。

広報宣伝に関しましては、山梨・長野県への誘客プロモーション活動を実施。大手旅行サイト「まっふるトラベルガイド」に特集記事を掲載。また、グーグル、インスタグラム、フェイスブック等での記事掲載やWeb広告を掲載いたしました。

誘客実績としましては、県内が1,574名、愛知県164名、東京136名、山梨・長野109名ほかとなっております。

続きまして、ふるさと納税事業の成果。

令和3年度から、ふるさと納税事業を受託させていただき、新たな地域特産品の発掘や事業者との連携を強化することで、寄附額を前年より約5,000万円増加、目標の3億5,000万円を達成いたしました。具体的に言いますと、寄附額、前年度は3億754万7,000円、令和3年度、3億5,263万7,000円となっております。

この増加に向けて行った施策としましては、返礼品の数の増加が挙げられます。523品、前年度より160品増加させました。新たな事業者さんや生産者さんの発掘、107事業者。前年度より26事業者増加いたしました。

ふるさと納税の受付サイトを追加いたしました。ふるさとチョイスに加え、楽天ふるさと納税サイトからの寄附受付を昨年の10月から開始しております。

注目されるように、返礼品のタイトルだったりとか、画像、紹介文のブラッシュアップを図りました。また、Web広告も開始いたしまして、ニーズに合わせたターゲットを設定し、返礼品の注目度を上げ、広告宣伝を実施しております。

災害支援のふるさと納税にもいち早く対応いたしまして、昨年5月1日に市内で発生した竜巻突風被害の寄附もふるさと納税のサイトで募りまして、寄附金額252万4,000円、件数153件の寄附をいただきました。

ふるさと納税部会を設立し、人気返礼品の開発やノウハウや情報を共有化しております。

また、ZOZOTOWN創業者前澤氏へ体験型返礼品のプラン提案を行いました。

三菱地所株式会社東京本社食堂において、特産品を使用したメニュー提供や地産品の販売を通じたふるさと納税の広報を実施いたしました。三菱地所の社員さんが3,000名ぐらいおりましたので、そこへのPRを行うことができました。

愛知県金山総合駅連絡通路内にて、ふるさと納税の広報を実施。

朝日新聞タブロイド紙（関東版105万部発行）に広告を掲載しております。

続きまして、その他。

USAサーフィンチームホストタウン交流事業。2020東京オリンピックの事前合宿地として当市に訪れましたUSAチームをおもてなしし、コロナ禍で直接交流ができない、そういった中、オンラインによる子供たちとの交流事業を実施いたしました。

地場産品等販売事業。

#### 1. 催事出展。

ごちそうマート（静岡市）にて、地産品の販売やシティプロモーションを実施しております。

遠鉄百貨店（浜松市）の「静岡県の美味しいもの展」に出展。ここでは、山の貴婦人、ウナギのかば焼き、新茶、白い珈琲プリン、角煮、福煮豆等を販売いたしました。

藤枝MYFCのホームゲーム「牧之原DAY」に出展。こちらは、お弁当、おにぎり、スナック、トウモロコシ、イカ焼き、メダカ。メダカは、メダカすくいの体験ですね。牧之原えーる、ビールの販売。アイスコーヒー、RIDE ON MAKINOHARAグッズを販売いたしました。

ちゃっきり茶太郎茶。

静岡牧之原茶親善大使の橋 幸夫氏をキャラクターにしたお茶商品を開発し、ファン層を中心に好評を得て全国のコンサート会場や通信販売を行っております。今、販売実績で2,500個ほど販売させていただいております。

RIDE ON MAKINOHARAプレミアムグッズの販売。

Tシャツ、ポロシャツ、トートバッグ、前かけ、グラス、缶クージー、ステッカー、キーホルダー、フリスビーなど商品を取りそろえて販売させていただいております。

また、地域活性化支援事業といたしまして、事業者様の相談を受けまして、マッチングや宣伝用の商品撮影、ラベル等の作成、販促物の制作、新店舗オープンに伴うHP制作、動画制作なども行っております。

商品開発補助金。

こちらは、会員事業者様に向けて、新商品の開発のためにメニュー開発費用やパッケージやラベル等のデザイン費用の助成を行い、ふるさと納税返礼品の増加につながるようサポートをさせていただいております。開発商品としましては、アイスコーヒーの紙パックのラベルのデザイン、アチャオ米、ジェラートギフトセットののし紙のデザイン等になっております。

その他のほうは、それ以外にもいろいろとございますが、一応、主立ったものを挙げさせていただきます。

以上になります。

#### ○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

今、活性化センターのセンター長から事業概要と事業の実施状況を説明、報告いただきました。

これに関して、皆様のご意見とかお聞きしたいことありましたら、よろしく願いいたします。

中野議員。

**○13番（中野康子君）**

説明いただきまして、ありがとうございます。

この市内の宿泊施設を見せていただきましたけれども、市内の宿泊施設で公的なお金を使って内装を変えて宿泊施設としてやっているところがあると思うんですけど、それはなぜここに入っていないのかというのが一点。

それから、前澤友作さんの体験プランの提案の中身をちょっと教えていただきたいことと、よってけ市も活性化センターの仕事ではないかなと思うんですけども、その内容につきまして、年間の売上げ等のご説明をいただきたいと思います。

**○議長（植田博巳君）**

活性化センター長。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

ご回答させていただきます。

先にすみません、よってけ市に関しては市の管轄ということで、私ども把握しておりませんので、その点は省かせていただきます。

一番はじめの宿泊事業者の内装の変更、この部分、ごめんなさい、こういった質問かもう一度お願いできますでしょうか。

**○議長（植田博巳君）**

中野議員。

**○13番（中野康子君）**

活性化センターのほうにもちょっと行っていらっしゃるじゃないですか。伊藤さんって、それがちょっと入っていないから、何でだろうかと。その辺です。その辺でお聞きしたいと思いで。

**○議長（植田博巳君）**

活性化センター長。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

ハズコテージさん、うちの会員さんではありますけれども、内装に関する変更に関しては、うちは一切。

**○13番（中野康子君）**

公的なお金を使って内装を全部改装して宿泊施設というのに、入っている、この中に。

ありました。すみません。

これちょっと見て、なかったの、どうなっているのかなと。

すみません。ありがとうございます。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

あと、すみません、前澤さんへの提案内容ですけれども、牧之原に昨年できましたサーフスタジアムジャパンを貸切りいたしまして、さらに、そこで地域の食材をふんだんに楽しんでいただ

き、プラス初体験で来る方もいらっしゃると思うので、しっかりとしたインストラクターもつけてサーフィンのレクチャーをして、その方に合ったサーフボードも特別にシェイプして、ウェットスーツなんかもそろえて、また牧之原でサーフィンなど体験に来ていただけるような、そんな提案をさせていただきました。

**○議長（植田博巳君）**

中野議員。

**○13番（中野康子君）**

コテージのほうは大変失礼いたしました。

前、よってけ市は、あそこの今の人たちがずっと経営していたものですから、ちょっとそれが今、市のほうに移ったというのはちょっと存じ上げていませんでしたので、申し訳なかったと思います。

本杉さんは商工会の会長さんでもいらして、それから、いろんなものに精通していらっしゃるものだから、商工会と今の活性化センターがいろんなことで、ものすごくいろんな知識を持っていらっしゃるし、幅広いあれも持って、特に草競馬なんか大変すばらしいあれで、お天気に恵まなかったことがほんと残念だったんですけど、そういう意味で、もっともっと観光と商工会がぴったり合っているいろんなことを進めていくと、もっとすばらしいものができるかなと思っているんですけど、その辺いかがでしょうか。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

中野議員のおっしゃるとおりだと思います。それをやっていこうとしているんですけど、この活性化センター、僕、ちょうど1年になるんですけど、やっぱり活性化センターって、今までの経過を見ると、観光協会だったんですよね。それが観光協会がちょっとというところで、市のほうが観光協会をなくしてしまって、あれは僕、大正解だと思っています。

それで、2年後、3年後に小栗さんが活性化センターをつくったんですけど、そのときも商工会で僕見ていたんですけど、あまりにも広過ぎちゃって、要は、観光協会ってイメージはなくしちゃって、まきのはら産業・地域活性化センターということで、別に名前とかいろんなことをやることに対して聞くと、ものすごく立派なんです。要は、牧之原の産業を観光まで含めて全部レベルアップしようということなんですけど、実際は、そのとき結果が出なかったものですから、僕、商工会やっていたときも、商工会の観光部会の人たちとかと一緒に市長、副市長のところには要望書を持っていったんですね。

どんな内容の要望書かという、まきのはら産業・地域活性化センターでは、名前だけのもので、やることはものすごく、実際結果が出ないと。だから、まきのはら観光活性化センターに名前を変えてくださいと。それで、観光にしないと、やっぱり結果が出ない。どうして出ないかという、全部市の観光課からの受託が多くて、それを予算をもらって受託して、草競馬と

かそういうのをやるだけという言い方はおかしいんですけど、そんな感じなんです。

ですから、やっぱりちょっと限界があって、観光に特化すれば、商工会の観光部会と一緒にあって、例えば、商工会やっていたときに、草競馬があって、草競馬は草競馬で四十何年続いているんですけど、お店が19軒しか出ない。これって非常に古い体質があって、19軒のお店というのは決まった人で、要は既定のその人がこのところで売ると。19軒だともものすごい売上げがある、2万人くらい来る中で。

ところが、僕、そういうのを見ていてそれではまずいんじゃないですかって言って、商工会が港まつりというのを1回やったんです。相良の港の高台、あそこで。9時から1時まで15分刻みで、全部フラダンスとか、よさこいとか、太鼓とか、みんな無料でやってくれる人たちがいっぱいいるものですから、それをやって、なおかつ店が70店舗出て、そうしたら、海鮮バーベキューなんかもやって。そのときに、船の、漁協の若い人たちが2台出してくれて、1人300円で、愛鷹岩1周とかをやったりして好評だったものですから、だったら、草競馬のときに一緒にやりましょうと。草競馬だけ見るんだったら、9時から3時まで草競馬を見てずっといるわけじゃないものですから、19店舗しかないの。そうじゃなくて、商工会の港まつりと一緒にやれば、草競馬を見た人が見る、ちょっと1時間ぐらい食事しながら、店が70店舗出ている。愛鷹岩まで行ける。そういういろいろ企画があって、それで踊りもやっている。そういうふうにしたら、やっぱりリピート、来年もあそこへ行きましょう。あの時期というのは、非常にどこのまちもイベントが、一番気候のいいときなものですから、やっているんですね。ですから、そういうので勝っていかないとまずいということで、提案するんですけど、やっぱり協力ができないんですよ。

商工会から言っていったら、活性化センターのほうではじかれちゃって。僕、逆に今度は商工会のほうに今投げかけているんですけど、今、中野議員がおっしゃるように、いろんなところで結びついて協力していくことで、無駄なお金も使わないですし、一緒にやることでもっと内容が充実して、イベントなんかもすごくよくなっていくと思いますし、それと、活性化センターの立ち位置というのが、僕びっくりしたんですけど、やっぱりふるさと納税が来る前は委託事業しかないんですよ。

これ、一般社団法人ですから、もうけなければいけないですよ、逆に。もうけていいわけですよ。ですから、今度はそういう意味で多分、ふるさと納税が来たんですけど。ふるさと納税、やっぱり5,000万円伸びたんですが、まだ伸びると思うんですけどね。やっぱり、ふるさと納税部会をつくって、優秀な人を集めて、もちろんお金は一銭も払っていないですよ。

自分たちでもっといい商品をつくって、もっといいもの。この前、勉強会をやったら、僕も知らなかったんですけど、写真を見るときに、やっぱりウナギを売ろうと思ったら、ウナギの匂いが出てくるような写真でないと思えないんですね。そういうのもあって、今、イチゴが半分なんですよ。イチゴが足りないんです。ですから、イチゴの農家なんかも、そういう冷凍の倉庫を



造りたいけどお金がない。ですから、今期初めて千五、六百万円利益が出そうなんですね。今まで利益なんてゼロだったんですけど。そういうのを使ってもっと開発だとか、そういう援助、補助していくというようなことをして、それでもっと売上げを伸ばしていくというように、やっぱり3年先、5年先を見た充実というのを図っていかないと、有効にお金を使っていくというのをしていかないとというのがありまして、ここは商工会ともかなり協力しながら。部会をつくっても、商工会の会員になっている人が、ほとんどなんですよ。ところが、ふるさと納税部会だと商工会とはまた違って、ふるさと納税に特化した部会ですから、商品開発とか、売り方とかそういうので、直接自分の利益にもなるものですから、これはやっぱり商工会のときの部会とはまた、皆さん目の色が違って、参加してくれるときにも真剣ですよ。

ですから、そういうのもあって、とにかく商工会といろいろ協力しなければいけないし、協力することでもっとどんどん大きな、二重、三重に、倍じゃなくてもっともっといい結果が出るような活動ができると思うんですけどね。

すみません、長くなっちゃってすみません。

**○議長（植田博巳君）**

いえいえ。中野議員。

**○13番（中野康子君）**

ぜひ本杉さんのお知恵といい形で進んでいって、牧之原市全体が盛り上がればいいかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

**○議長（植田博巳君）**

ほかに。

木村議員。

**○6番（木村正利君）**

やっぱり目が行くところがふるさと納税事業と、それとこのチラシを見たときに、ちなみにこの牧之原市内、ここに書いてある宿泊施設なんですけど、この人数って何人ぐらい、全部であれんですか。ちょっと勉強不足で申し訳ないんですが。

**○議長（植田博巳君）**

センター長。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

宿泊事業者さんは、宿泊施設としては、この7月にまた新しく静波にカミーラというグランピングができる施設もオープンしまして、今、25施設になっております。

**○議長（植田博巳君）**

木村議員。

**○6番（木村正利君）**

要は、この前のご説明の中で、県内から1,574人、また愛知県とかがってご説明いただいたんですが、この地域、サーフィンも含めてずっと通年型にしていきたいと私も思っているんですが、

PRとしたら、例えば、これを見たときに、牧之原市1,000人泊まれるぜとか、要は、私はそこら辺がもうちょっと増やしていくという中では、そういう1,000人いつでもいいよというような、ここに泊まる施設もそうなんです、そういうアピールの仕方がいいのかなということを思いました。

それともう一点、この前、6月7日に総務建設委員会と活性化センターさんでいろんなお話をさせていただいたときに、ふるさと納税も受託してから5,000万円アップというご説明いただいて、私のほうも詰めてなかったんですが、自治体が使っているこのふるさと納税をこういうふうに使ったよというアピールが、今現在、僕、たまたま今日あれでチェックしたんですが、市として教育にこんな使ったよというのが、1か月以上たつんですが、そこら辺のこともぜひ、受託している中で市とも共有しながら、ふるさと納税使ったらこういうものに使われているよというのは、相互間でそこら辺もスピード感を持ってやっていっていただければ、もっともっと集まるんじゃないかなとちょっと感じたものですから、そこら辺もひとつよろしくお願いします。

**○議長（植田博巳君）**

活性化センター長。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

ありがとうございます。

ふるさと納税の本来の形というのが、その自治体に寄附をして、そのサポートというか、そういうものが気持ちの中であるというのが一番ベースだと思いますので、木村議員のおっしゃるように、今後も、これはちょっと市のほうからの発表ということが必要になってくるとは思うんですけども、その辺もこちらも連動してPRさせていただければと思っております。ありがとうございます。

**○議長（植田博巳君）**

今の件については、市のほうでどういう使い道をしたかということで報告があると思います。

太田議員。

**○12番（太田佳晴君）**

今日はありがとうございます。

先ほど中野議員のほうから質問が出て、私、今日のこうした機会って、まさに先ほど理事長が本音の部分でいろいろお話ししていただいたものですから、非常に分かりやすく、まさにそこが一番大事だなと、すごく感じたんです。

というのは、やはり理事長、いろいろ商工会の会長としてお務めして、それでいろんな問題を考え、また今回は活性化センターのほうで、牧之原市の観光についてこうしたいという思いの中でやっていただいている。それがなかなか、我々から見ても本来の牧之原市の持っているポテンシャルが十分生かし切れない観光が今存在しているというのを感じているわけなんです。

それで、まさに理事長が先ほど言われたように、やはり市と、今ある観光協会に代わる活性化センター、それと商工会さんも一体になって、本当に、多分それぞれの組織でいろんな抱えてい

る問題、やりたくてもやれない、そのやれないものをしっかり、お互いが一つのテーブルの上で忌憚のない話をする中で、それを取り除いて一つの牧之原市の観光に向かうということが一番大事だと思うんですけども、なかなかそれが、恐らくできないというのがあると思うんです。それをやはり、とりわけ力になるのがこの我々議会だと思うんです。

だから、そういった意味でいくと、ぜひとも忌憚のないところで、先ほど理事長の言われたように、やっていきたいけれども、何が障害になってできないかということ、できればいろいろお話ししていただいて、それを我々議会としても、そこに市に問題があるならば市のほうへ、しっかりと我々議会として注文をさせてもらおう。また、商工会さんとも、もし我々の立場でお話しさせてもらえるのなら、するというようなことで行きたいと思うんですけども、一番理事長が考えるその辺の本音の部分でお話ししていただきたいと思いますが。

### ○議長（植田博巳君）

活性化センター理事長。

### ○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）

太田議員の言うとおりで、実はいろいろありまして、例えば、コロナになったものですから、牧之原市の観光って何だというときに、やたらに外から人を呼ぶだけが観光じゃなくて、コロナになったので、つくづく思っ、僕ら活性化センターのミーティングで言っているんですけど、牧之原市内の観光地って、別に、例えば一つ挙げると、桜のライトアップ、勝間田川のライトアップ。実はあれ、すばらしいんですよ。すばらしいんですけど、駐車場が一つもなく、センター長なんかいつも行くときには、居酒屋の上越へ止めていくとか、それで何にもないですよ。あそこに、見ると市の田んぼみたいなのがあるんですよ。そこを埋め立てて駐車場にするとかして、いつもお店が5軒ぐらい並んでいるとか、かき氷が並んでいたりと、行けば。別に10軒でもいいですよ。駐車場は30台ぐらい止まれるところがあるとか、そういうのもやっぱり、せっかくこういうパンフレットに載っているのに、行ったら駐車場もない、何もない。でも、ライトアップされてものすごくきれい。

そういうのを見直すと、市内でも見直すとすばらしいところ、結構あるんですよ。ところが行けない。そういうところって、いろんな施設があるじゃないですか。施設のお年寄りも、自分のところがコロナが終わったら、自分のところの車で自由にそういうところへ連れて行ったりとかして、外へ出すことで元気が出るというのであったら、やっぱりそういうせっかくいいところがあって、コロナがあるから遠くへは行けなくても、牧之原市内でも勝間田のあの桜のライトアップを見たことない人はいっぱいいると思うんですよ。それも一つの観光というふうにすれば、意外とそういうのをもっと徹底周知していけば、もっともっと充実した観光、これは一つですけど、もっといっぱいあるんですけど、そういうところから始まって、あとは呼ぶ場合ですけど、ウェイブプールができたものですから、結構今年、山梨とかああいうところから来ると思うんですよ。泊まる場所ほとんどいっぱいになっちゃってしまっていて、ゼロですけど、やっぱり一番、木村議員からあったさっきので、すぐにスウィングビーチがいっぱいになっちゃうんですね。あ

とはいつもそこなんです。結局、今の民宿も、ペンションセイラーズなんかも、マイクロを売っちゃって、全部ああいうのは宿泊だけにしたんですね。宴会はやめちゃったりしてる。

どんどん今、民宿も変わっているんですけど、民宿を見に行くと、お風呂とかトイレとか、部屋ももっときれいにしないと違うんですよ。それにはお金がないんですよ。ですから、もっとどんどん、だから自分でできることは掃除することだから、掃除は自分たちでやれるから、お金かからないからやったほうがいいんじゃないって言うんですけど、そこまでの自己啓発というか、なかなか難しく、もうちょっと何かよくするにはお金も必要だから補助金というのを、もしこういうので、ふるさと納税で少しでも利益が出れば、そっちへ回したりとかしたいなと思うんですけど、スウィングビーチとかとレベルが違って、ただ言えるのは、静波のほうが宿泊がっぱいなものですから、相良のほうへ流れてきているのは事実です。

ですから、相良と榛原って、静波ばかりいいものですから、相良の民宿の人たちが、何かあっちのほうばかりと言うんですけど、そんなことだんだんなくなってきていて、実態としても相良の人たちも分かってきているのは、向こうがいっぱいになると、すぐ相良へ来るんですね。遠くから来る人は、あそこの信号からこちらの海水浴の信号まで8分なんです。8分というのは、遠くから来た人は何も遠く感じないんですね。こっちの人だけが遠く感じているだけで。ですから、向こうがいっぱいになれば、すぐ相良へ来てくれるというので、そういう意味でこれからやっぱり少しでもコロナが明けたら利益を出してもらって、ウェイブプールができたものですから、あそこに新しいホテルもできるかもしれないと言っていますし、そういう面では、もっともっと静波へ来てもらって、相良にも来てもらうというようなふうにしていけたらと思うんですけど、民宿を少しでもきれいにするようにしていきたいと思いますので。

#### ○議長（植田博巳君）

太田議員。

#### ○12番（太田佳晴君）

ありがとうございました。

やはり理事長のように率直に本音でしっかりそのときの状況をお話していただいたり、腹を割るといって、そういうお話のできるリーダーがいるうちに、特に観光を進めていかないと、もともと観光協会がああいう形になったのは、やはり本来の観光とは少し違う分厚い壁があった。それを市のほうも英断を持って打ち崩した。だから、新しくできた活性化センターはそういった反省を踏まえて、やはりそういったことでしっかり、今、理事長が話ししていただいたようなことを、もっと本音で我々も受け止めなければならないし、それも市のほうもしっかり受け止めていただいて、それぞれの立場の中でできることをみんなで協力するということが大事だと思いますので、またぜひとも、これだけいろんな事業をやっていただいて、事務局の皆さんも頑張っていると思うものから、それが成果としてみんなが、よかったなとなるように、ぜひともまた引き続きお願いしたいと思うし、我々も頑張っていきたいなと、そんなふうに思いました。ありがとうございました。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

一つ連絡するだけですけれど、やっぱり古いのがまだ残っているというのが、そういう今回の草競馬のお店にしても、今度たくさん出したんですけれど、それでも最初はすごい抵抗がありまして、前からやっている人の19店舗のほうから、ここは俺の場所だということで、要は、中山さんのところへも夜中にずっと1時間ぐらい電話が来たりとか、僕のところにも電話が来たりとかして、それを断固として、いや、それは終わりましたよと、これからは出たい人、牧之原市が最優先ですけれど、とにかく出てくれる人は全部出てくださいと。場所も全部抽せんでやりますよということで、そういうふうにしたんですね。

ですから、そういうのがどんどん定着していけば変わってくると思うんですけれどね。まだそういうところが残っているのが事実です。それ打破していかなければいけないと思いますけどね。

**○議長（植田博巳君）**

石山議員。

**○1番（石山和生君）**

先ほどの駐車場だとか、結構根本的に観光を進めていくために必要だという問題ってたくさん、先ほどは部屋が汚いとか、風呂が汚いとかもあったと思うんですけれど、それをやろうとした場合は、これは誰が決定することになるんですか。市が決定することになるんですか。活性化センター独断でできるようなものなんですか。そこをちょっと聞きたいです。

**○議長（植田博巳君）**

それは市のほうで計画、そういうような声を上げれば、市が計画して、駐車場の整備とかそういうのをやっていくことになると思います。

**○1番（石山和生君）**

ということは、市としてどういったお客様をメインターゲットとしてやっていくのか。そのメインターゲットに合うような、例えば、トイレが、風呂がとてもきれいじゃないと全然来ないんだということだったら、それに対して補助金を出さなければいけないとか、ただそういったことになるやっぱり思っていて、そのターゲットとかどういうお客様を連れてこようとするのかというのは、誰が決めて、こういうターゲットがいいんじゃないかというのは、活性化センターさん側から言うことなのか、それはそうじゃなくて、議会として行政にちゃんと決めてよってアタックしていくことなのか、どっちなのかなというのが、すごいもやもやしているんですけれど、お聞きしてもいいですか。

**○議長（植田博巳君）**

活性化センター理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

実は、今の意見ですけれど、結局、民間というのは自分で計画を立てなきゃいけないと思うんで

すよ。ですから、とにかく、さっきのライトアップのところは活性化センターが率先してここへ駐車場を売ったら幾らになる。それには、そこの近くの人たちからして全部関係する人が集まって、どのくらいの費用がって、それは市へ頼もうとか、観光課へ頼もうとか、そういうことを全部自分たちがつくって提出していく、提案していくというのが必要で、それと今の発言の中で、民間の民宿も、自分のところをこうしたければ、ちゃんとこういうふうには内装を変えたいと。それには幾らぐらいかかるというようなことを、どんどんと自分で出して、幾ら足りないとか、そういったことは商工会でもやっぱりつくれるし、活性化センターでも観光部会があるものですから、つくっていく。やっぱり自分でつくっていかないと。それを提案していく。それを審議してもらってまあというような形で。そのお金が出るところがないものですから、できたら活性化センターで稼いで、少しでも援助してあげたいなどは思っているんですけど、基本的には自分のところから出していく。自分のところから出していくように周りも教えていくというか、情報を与えていくというようなふうにしていくしかないと思うんですけどね。

**○議長（植田博巳君）**

石山議員。

**○1番（石山和生君）**

もちろん民間は民間のためにやっていくものですがけれども、市として観光を外貨を稼ぐ手段として考えるのであれば、行政側が積極的に動くというのは全然あり得る話だなと、私自身は思っています。

なので、ちょっと言いたいこと忘れちゃったんですけど、例えば、誘客キャンペーンとか、ふるさと納税とかは、市からこれをやってくださいって決められていることだと思うんですけども、1の観光まちづくりとか観光振興事業というのは、どこまで、これは例えば、さがら草競馬をやってくださいとか、そこら辺ってどの程度市が絡んでいて、どの程度自分たちでやりたいことがやれるのかというのをお聞きしたいです。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

今の意見なんかすごく大事で、僕つくづく思うんですけど、本当に若い人の意見をどんどん取り入れていかないと無理だと思うんです。

まさに石山議員がいるカタショーなんかは、僕たちのイメージでは、そんな言い方をしてはいけませんけど、あの小学校にあれだけ泊まれる施設ができて、実際かなり泊まっているというのは想像できなかったんですよ。それを見事やってくれているじゃないですか。ああいうのを見ると、やっぱり若い人たちがもっとどんどん、どんどん意見を出せるような雰囲気にしていかないとまずい。

例えば、今度の田沼意次の大河ドラマ化もそうですけど、あれもできたら、漫画ができたので、僕、あれすごいいいなと思っているんですけど、漫画を中心にして、小学生、中学生、高校生に

月に1回とか2か月に1回ぐらい授業で田沼意次のことをやって、あの朱子学の問題から何か知らない人いっぱいいますから、そういったようなことをやって、小学校、中学校、高校生がうちへ帰ってもお父さん、お母さんに伝えるようにすることで結構盛り上がって、NHKなんかを呼べば、小学生、中学生、高校生がこんなに盛り上がっているんだと言えば、意外と大河ドラマ化できるかもしれないけど、やっぱり年寄りの人ばかり言っているけども何だということになってね、物珍しさが無いものというふうなことになるので、僕は今の石山さんの意見もそうですけど、どんどん若い人が、全然関係ない人同士が、今はだって成功しているグーグルだって、アメリカ人とソ連人が一人、全然関係ない人が2人集まってあんなグーグルができちゃっているんですから。やっぱり完全に違う感覚の人同士を集めるというか、そうしないと、観光もそうですけど、商工会もそうですけど、市も、みんな同じことやっているんですよね。人が減るから呼びましようって。みんな同じことやっていて、みんな同じような人が考えていても、やっぱり無理ですよ。全然新しい人とか、全然違う人を、結構いるんですね。

この前も皆さん来てくれてありがたかったんですけど、ごみ拾いを海でやったじゃないですか、7月3日に。あのときも全然違う、全然見たことない人がいるので、ちょっと立ち止まって聞いたら、いや、こっちに住みついているとか、そういう人が結構夫婦で全然関係ない人が来てくれて、若い人ですよ。ああいう人をどんどん意見を言えるような、区がどんどんいて、区長もそうですし、区のあれなんかもっと若い人がどんどん入れるようにしたら変わってくると思うんですけど、同じことをみんなやっていて、同じことを考えているので、なかなかうまくいかないような気がしますけどね。

#### ○議長（植田博巳君）

太田議員。

#### ○12番（太田佳晴君）

私が発言したらおかしいかもしれませんが。さっき石山議員のほうから出たターゲットという分組なんですけど、以前、我々総務建設委員会で熱海に観光の関係で視察に行ったことがあったんです。それで、熱海の観光ってものすごく盛り返しているというふうなことでお話を伺ったんですけど、そのときにやはりしっかりしたターゲット、年齢層のターゲットを定めて、それに基づくキャンペーンを打っていたんですよ。こうしたカタログを見ても、そのとき若い女性がいろんなところへ出たんですけど、もうちょっと年齢層の人単位だったと思うんですけどね、やっぱりみんなに、牧之原市のいろんなものを見ていると、観光だけに限らず、行政でしようがないと思うんですけど、ある程度、全部にいい。全部にいいというのは、全部にある意味中途半端になっちゃう可能性もあるんですよ。

だから、今、理事長が言われたように、ある程度、特に観光の場合は、この牧之原市にとっては、この年齢層をこういう形で呼び込むということも、まずは仕掛けとしては、私はありかなと思うものですから、そういう特徴ある観光をこれからやっていかないと、どんどんどんどん全部が衰退していくという、そういった状況が起きているような気がするものですから、我々議会と

しても今、提言を一生懸命考えていますけど、それが大事なとちょっと感じましたので発言させてもらいました。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

昨日、市長と一緒に山梨へ行ってきたんですよ。その前に8日の日には、僕らが山梨を八つか九つぐらい回ったんですけど、山梨の人たちって本当に今までの観光協会の民宿の西谷さんとか、40年ぐらい前からずっと行ってきているものですから、あれは本当に向こうの人が言うんですけど、僕もびっくりしましたが、静波と相良サンビーチは山梨の海だって向こうから言うんですよ。あれって完全に、後発の御前崎やどこが行っても、40年の歴史、すごいなって思っただんですけど、そのときに、やっぱり中山さんも市長も、市長も昨日ラジオ15分出て、ウェイブプール言いましょうということで、あれでいろんな市へ行ってもウェイブプールで手ぶらでサーフィンできますよということ、向こうの市の観光課の女性の若い人たちも、水着だけで教えてもらえるんですかということ結構興味を持っているものですから、僕はああいうのもっともっと思っていて、具体的にはそんなことでいいなと思っと思っていますけど、すごい興味を持っていますね。

**○議長（植田博巳君）**

大井議員。

**○11番（大井俊彦君）**

いろんな観光の関係とかでいろいろお話が出ていますけれども、私は今、市のソフトボール協会の会長をやらせてもらっているんですけども、協会では、市内には、ぐりんぱるという運動場と静波グラウンドというのがあって、両方合わせると一遍に7試合ぐらい同時に試合ができるというような環境にあるわけで、全国レベルの大会もいろいろ誘致していますけれども、全日本レベルとか中部日本レベルとかの大会で、高校生のチームをいろいろ誘致するわけですね。そうすると、親御さんが来てくれたり、監督、コーチ等と合わせると、1チーム大体25名ぐらいの規模で来られるわけです。

その方々を焼津から御前崎ぐらいまでの宿泊施設に割り振って泊まってもらうんですけども、あるとき、三重県の山間部のある女子高のチームが来られまして、たまたまこちらがいっぱい、焼津から相良までいっぱい、御前崎のある宿泊施設に宿泊されたんですけども、その方々は山の中の高校ですから、御前崎ということで海岸部の施設に泊まるということでわくわくして、新鮮な海産物が食べられるということで、大会もそうなんですけれども、そういう食べ物にも興味を持って来られたということで、2泊されたんですね、そのチームは。ところが、その2泊とも晩のメニューがカレーライスだったということだったんです。監督さんから帰り際に本部のほうに来られて、残念でした。海岸端に泊まれたものですから、もっと新鮮な海の幸が食べられるかと思った。楽しみに来ていたんですけども残念でしたということを言われて帰られたんです



けれども、残念なことにそのチームは負けて帰ってしまったんですけれども。

そういうこともあって、私は、そういう受入れに対する思いやりというか、当然トイレや部屋もきれいなのにこしたことはないんですけれども、やっぱりそういうおもてなし、これが受入れ体制の基本だと思うんです。ですから、おもてなしの、皆さんがそういう気持ちで、来てくれたんだという気持ちをもって、この子たち、このチームに対してどういうおもてなしをするのが一番喜ばれるかなって、そういうところをぜひ考えてもらえれば、これからの活性化にもっともつとつながっていくんじゃないかなというふうに思いました。

ですから、そういうソフトの面でも、ぜひそういう面で、来てくれたという気持ちを前面に出していただければ、牧之原市の観光もこれからもっともっと発展していくんじゃないかなというふうに感じました。

以上です。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

おっしゃるとおりで、この前、7月3日に相良と静波のごみ拾いを海岸でやったんですけど、やっぱり挨拶は、僕も市長もみんなそうですけど、とにかく楽しみにして来てくれる山梨とかお客さんを、少しでも海岸がきれいな状況でお迎えしようということなんですよ。

今のカレーの話で思い出したんですけど、8日に、先週の金曜日に山梨を僕ら回ったんですけど、中央市の課長さんが、すごいなと思ったんですけど、牧之原市へ結構来るんですよ。何で来るかという、生シラスを食べたくて来る。それで、その人は通で、僕らよりも逆に知っていて、要は、朝捕れたのでなきゃ駄目だと。夜食べる生シラスは駄目だと。朝捕れたてのをお昼に食べるのがいい。それを楽しみに来て、泊まって、もちろんよく知っていますよ、海が風いでいないと船が出ないというの。そういう中央市の課長さんがいてびっくりして、ですから、あれを思うと、生シラスを食べに朝、捕れたての船から下ろしたの、それだけでツアーというか、あれしても意外といえるのかなって気がしました。あれ、すごい人がいるなと思って。

だから、あの人だけじゃないと思うんですよ。何人かいるんですよ。昔から、40年も前から来ていますから、やっぱりそういうのに巡り合った人がいるんですよ。今のカレーの話聞いて思い出しました。

**○議長（植田博巳君）**

村田副議長。

**○15番（村田博英君）**

さっき理事長、今年は黒字になりそうだという話がありましたけど、令和3年の決算はどのようなことで終わったんでしょうか。

**○議長（植田博巳君）**

活性化センター長。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

うちのほうは、先ほどから申し上げていますように、基本的には市からの委託事業だったりとか負担金、人件費に関しても負担金とか頂いて回しているところなので、収益というのは、まだそこも全て自分たちで稼いで人件費まで全て賄って初めて出るものだとは思っているんですけども、そういった部分では、黒字というのはまだ先な状況でございます。

現状の資産部分の合計が4,299万2,896円、資産合計ですね。負債の合計が1,952万4,135円で、正味財産の合計が2,346万8,769円。先ほどの負債と正味財産の合計が4,299万2,904円ということで、先ほどの資産合計と一致するという形になっています。

**○15番（村田博英君）**

要するに企業ですから、売上げがいくつあって、そういう出し方でやっていただければ。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

歳入は、収入の部、令和3年度予算額で収入合計が9,854万1,000円、支出の合計が9,854万1,000円です。

**○15番（村田博英君）**

ということは、売り上げとしては収支ゼロと。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

そうです。はい。

**○15番（村田博英君）**

これは出し方の問題があると思うので、これ以上は結構ですけど、普通の企業会計でいきますとね、恐らく赤字だろうと思いますが。

要するに、課題というのを明確にしておかないといかんと思うんですね。

先ほど来から出ている、要するに、何をするかということがポイントになると思うんですが、見ると、ソフトボールだとか、実は、私はバスケットボールの顧問をやっているものですから、そういう大会があるんですね。だけど、ここで呼べないんですよ。宿泊施設もないし、会場もないんですね。だけど、今度アリーナができますよね、2024年にできるということで。そうすると、そういうものも呼べるんですね。

そういうことで考えていって、その予算を組んでいただいて、それで利益を上げて投資していくという、こういうことになるかと思うんですが、そこを明確にしていれば、議会とか、皆さんいろんなことをやられていますので協力できると思うんですね。そういう観点で、ぜひこの議会を利用していただければというふうに思います。

**○議長（植田博巳君）**

活性化センター長。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

ありがとうございます。ぜひ協力して、このまちをよりよくさせていただければと思って励んでおりますが、先ほど、まずちょっと石山議員からの質問にまだ答えていなかったなので、ちょっ

とその点も答えさせていただきます。

まず、観光まちづくり事業に関しましては、これがこのセンターが設立当初に国の地方創生交付金を使って建てられた施設です。その中の交付金の事業の中で3年間行ってきた事業なので、令和4年度にはこの予算はついておりません。

さらに言いますと、イベント等の観光振興事業、こちらは負担金で行っていますので、年間この事業をやるということで、事前にもう決めたものを行っていくというような事業になってきていますが、先ほどの理事長から意見もありましたけれども、せっかくやっている勝間田川の桜のライトアップとか、あれに付随する形で、より大きく出展者を募ったりとかという形で収益を上げていくということはできるかなと思っております。花火大会ももっと派手にやったりとか、相良の草競馬大会に関しても、もう少し大きい規模で、このまちの名物の観光になるようにつくり上げていくということはできると考えています。

ですので、こちらも新たなことをやるとしたら、そこは一般の会社と変わらず新規事業という形で、リスクも覚悟しながら、皆さん事業者さんと協力し合ってつくっていかねばというふうに思っていますが、今まで培ってきているノウハウ等がございますので、それを生かしてやっていければというふうには考えております。

以上です。

#### ○議長（植田博巳君）

本杉理事長。

#### ○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）

全然余談で申し訳ないんですけど、やっぱり一般社団法人ということで、来年の元旦にいつも鳥居を造ってやるじゃないですか。あれもやっぱり利益を出したいんですよ。ところが利益が出ないんですよ、あれだけです。あれに、皆さんのご意見を聞きたいんですが、僕が言ったら結構反対されていまして、無理だと言われているのは、コロナでも今年千何百人来てくれたんですね。そこで花火をやったんですけど、来年もやるんですが、20分ぐらい。それで小学生から高校生まで今年の抱負を言ってもらったりしてやっているんですけど、あれにできたら昔はただで甘酒とか出していたんですね。あれを、甘酒、お汁粉、豚汁、それからラーメン、有料で出したんですよ。

有料で出したときに、来るかって、もちろんそれだけじゃなくて、おみくじ、飯津佐和乃神社の八木さんが来てくれるものですから、おはらいをやってくれるんですよ。あの人がおみくじを持ってきて、あれ100円だか200円ですけど、入れておいて、もちろん大吉と吉しか入れてないようにするしかないんですけど、それをやったときに、もちろんおみくじあたりは売れると思うんですよ。あとみんなから言われているのは、やっぱり甘酒を有料だったら、甘酒から何から、豚汁とかラーメン、有料だったら売れないって言われているんですけど、僕はやっぱりそういうのに1回チャレンジして、やるところがあったら出してもらえれば。千何百人いれば、寒いものですから食べる人がいるんじゃないかなと思うんですけどね。そのうちの300人ぐらい食べてく

れば、少しは利益が出るんですけどね。

**○議長（植田博巳）**

いると思いますね。ただ、どれだけ売れるかどうか。それをある程度試算しないと、ラーメンは出店するとか、しないとかって、そこで判断が分かれるのかなと。

どうですか。絹村議員。

**○3番（絹村智昭君）**

先ほど来、連携という話が出ています。観光協会、活性化センター、それで市との連携という中で、それだけではやっぱり、先ほど大井議員からも話が出ましたが、受入体制、受入体制というのもしっかりしなければいかんと。それで若い者の声も聞かにゃいかんという中で、若者の参加とか受入体制、お手伝いも含めて、イベントをやるときの体制などお声かけして、若い方たちを、市民を巻き込んでやっていくという形で進めていけば、この観光というのはずっと続けて継続できていくのではないかと自分は思っています。

この間の土曜日ですかね、パラサーフィン大会がありました。そういうときにも市のスポーツ課、観光課、福祉課の方も出てきましたけど、そういう方たちも全体を巻き込んで、また市民団体にも声をかけて応援したり、一緒に参加してやっていければ盛り上がり、ずっと継続していけるんじゃないかなと感じたと思うので、そういうのも自分たちも協力できればと思います。

以上です。

**○議長（植田博巳君）**

太田議員。

**○12番（太田佳晴君）**

先ほど、理事長の甘酒や豚汁を有料というのを反対というのは、どういうことですか。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

活性化センターの連中にミーティングで言うと、そんなの理事長、絶対売れませんかと言われる。まだほんの内輪だけなものですから。

**○議長（植田博巳君）**

太田議員。

**○12番（太田佳晴君）**

私個人的には、おいしければワンコインぐらいで、それが一つの、初日の出に行ったら、おいしいのが飲めた、また来年もって、ある意味そういう思いを抱かせると意味では、負担にならないぐらいなら、別にいいなと思うんですけどね。飲みたくない人は当然飲まないだろうし。

今までも、甘酒をいただいたりするんですけど、そんなに頑固ね、やっていますよということで宣伝している甘酒じゃないと思うんです。お金を頂くとすれば、今度はやはり飲んでもらうために呼びかけて飲んでもらうので、知らない人が飲んだら、おいしいなということで面白いんじ

ゃないかなと思うんですけどね。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

もちろんやるときには、マイクがありますから、売っていますよということでやるんですけど、最初の試みというのは何でもチャレンジなものですから、ラーメン屋とか、お汁粉をやる場所とかそういうところに話しかけて、店を出してもらえるかどうか、それを説得しなければ、もしかしたら全然売上げない可能性があったりする。

**○議長（植田博巳君）**

中野議員。

**○13番（中野康子君）**

今のお話を伺ってしまして、あそこ、毎年、お塩を配るじゃないですか。それも、ばっちらがいで、ものすごいあれで、持っている人が危険を感じるぐらいのあれ。だから、島田の大井神社もお塩は100円やっていただいているって、あれぐらいの大きさなんですよ。だから、逆にあのお塩も神様にあげたお塩ってちゃんと言うものですから、1月1日の元旦ってそういうお祈りをささげるあれもあるものだから、そういうのも含めながら、お汁粉だとかそれっていいと思いますよ。やってみないと、なかなか広がっていかないから、ぜひ私がいいと思います。いい考えだなと思います。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

とにかく今までと違って、やっぱり活性化センターは一般社団法人ですから、とにかく今まで全然利益が出なかったようなイベントを、もっとお金を使ってもらえるようなふうにしていくアイデアをみんなで出していきたいと。チャレンジですけどね。

**○議長（植田博巳君）**

石山議員。

**○1番（石山和生君）**

ちょっと気になっているのが、収益というのは誰目線の収益なのかなと思っていて、例えば、活性化センターの収益となると、出店してもらって、恐らく販売の何%なのか、出店料なのかくらいしかもらえないと考えると、300人でと考えると、全然もうからないんじゃないかなとかもちょっと考えてしまったんですけど。これはどういう。

**○議長（植田博巳君）**

本杉理事長。

**○まきのはら活性化センター理事長（本杉芳郎君）**

元旦のああいうのは、みんなリベートで1割とか2割もらう。おみくじももらう。それしかないです。

ただ、草競馬とかああいうところは出店料はちゃんともらいますけどね。

**○議長（植田博巳君）**

名波議員。

**○4番（名波和昌君）**

参考までなんですけど、うちの地元の神社で大みそか、お参りに来るときに、今までは区会の人たちが無料で甘酒あるいはお酒、振る舞い酒をしていたんですが、昨年、初めて有料の甘酒とか出したんですよ。そうしたら、すぐ売り切れちゃいました。だから、そういうことであまり心配しなくても、販売はできるんじゃないかなというふうには思いました。

**○議長（植田博巳君）**

活性化センター長。

**○まきのはら活性化センター事務局長（中山史一君）**

多分、ずっと今までやっていた人たちは、無料でやっていたから買うわけないって、こういうふうな反応を理事長にそのときはぶつけちゃったと思うんです。僕も、こっちへ戻ってきたものですから、全然販売して、それこそおいしければ売れると思いますし、そこも元旦、特別にちょっとお餅が違ふとか、あと地元のこれが入っているとか、いろいろちょっとそんなアイデアを出せば、僕も売れるとは思っていますし、企画次第かなと思っています。ありがとうございます。

**○議長（植田博巳君）**

もうじき12時になりますので、それ以外、質問、お聞きしたい方いたら。よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

今日は本当に有意義な報告会ということになりまして、活性化センターと商工会の皆さんが連携してやらなくちゃいけないということと、やはり市内にも観光の名所、勝間田川のライトアップに象徴されるように、子生まれ温泉だとか、女神とか男神という伝説もありますし、そういったものも観光として整備していくことが必要だというお話も出てまいりました。

あとは、民宿の方々がトイレとかお風呂を改造するには、やはり集客、収益性が将来あるのかなが、その判断材料になるのかなと思っています。

その一点としてウェイプールが核となって、山梨のほうからも来てくれるということですので、やはり核となるものができて、収益性と継続性のあるものが出てくれば、トイレとか改造も自主的に見積り取って、幾らか支援してくださいという話もできるかなのかと思いました。

大変いい会議でありました。ありがとうございました。

これからも活性化センターの皆さんには、牧之原市の活性化のために活躍していただきたいし、議会も今、活性化するための、総務建設もそうですけれども、文教厚生委員会でも市の活性化のために動いておりますので、また何かとお知恵をお借りすることも多いかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の全員協議会についてはこれで終了いたしたいと思っておりますので、本日はどうもありがとうございました。

〔午後 12時00分 閉会〕